



テクニカル・メッセージ

エンジンオイル量の日常点検について

近年の車両は、排出ガス低減を図るためにDPRシステムを採用しております。従来のDPRシステムは再生時、エンジン内に燃料噴射していたため、エンジンオイルに燃料が混じり、エンジンオイル量が増加することがありましたが、最近のDPR車はデバイスの向上により、エンジンオイルに燃料が混じることがなくなりました。

これにより、DPRシステム採用以前の車両と同様に、エンジンオイル量は徐々に減少していきますので、エンジンオイル量が「適正範囲」以下になっていることを気づかず稼働を続けると、エンジンが破損するおそれがあります。日常（運行前）点検時は、エンジンオイル量の確認を確実に実施していただくようお願いいたします。

■ 対象車両

新短期排出ガス規制以降 日野大中小型トラック・バス全車

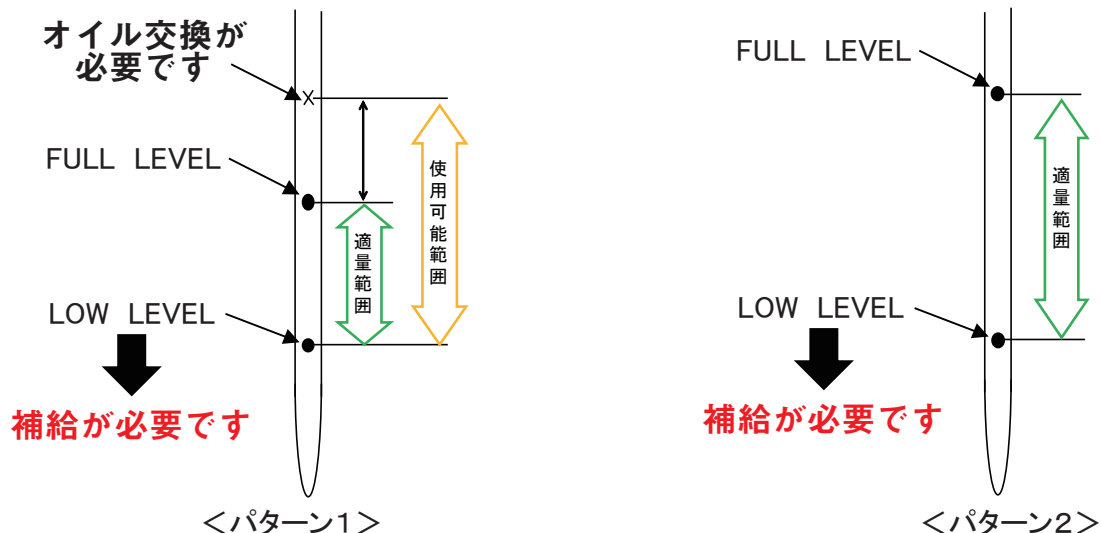
■ 日常（運行前）点検について

日常（運行前）点検として、下図に示す要領に従い、オイルレベルゲージでオイル量が、LOW LEVEL から FULL LEVEL（○穴：給油用）内にあることを確認してください。

以下の場合にはメンテナンスを行ってください。

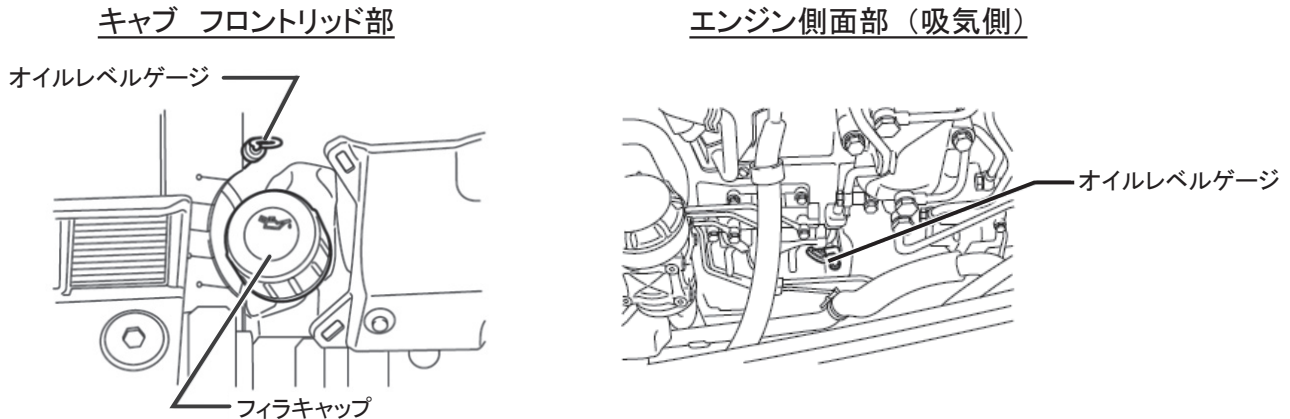
- ◆エンジンオイル量が×印（点検用）を超えている場合
エンジンオイルを交換してください。
- ◆エンジンオイル量が LOW LEVEL 以下の場合
「適量範囲」までエンジンオイルを補給してください。

車両の型式や年式によってレベルゲージのパターンが異なることがあります。



オイルレベルゲージ設置場所（取扱説明書を参照願います）

例：E13C エンジン搭載車



■ オイル交換時の注意

オイル交換は、以下の手順で行ってください。

尚、給油後30分経過した時点で、オイル量の点検を行いますが、時間の都合等で点検できない場合には、オイルレベルゲージ LOW - FULL の中央レベルまでの給油としてください。

その後できるだけ早いうちに、正しい点検でご確認ください。

【交換手順（取扱説明書から抜粋）】

- ①車両を平坦な場所に停車し、エンジンを停止します
 - ②フィラキャップとオイルパンのドレンプラグ及びオイルフィルタのドレンプラグを取り外して排油します
 - ③完全に排油した後、ドレンプラグを確実に締め付けます
 - ④オイルフィラから給油します
 - ⑤給油後、10分程経過してから、オイルレベルゲージでオイル量を点検します
 - ⑥エンジンを掛けて、アイドリング回転にします
 - ⑦エンジンを止め、30分以上経過してから、オイル量を点検します
- ※注意 FULL LEVEL（給油用）を絶対に超えない様にしてください

■ オイル補給について

オイルを補給する場合は、上記交換手順の①④⑤⑥⑦にて行ってください。

■ その他

車両を長期間お使いいただくためには、オイル交換時期も重要です。

エンジンを高回転・高負荷で多く使用している場合は、走行キロ数に関わらず早めに交換してください。

定期的にオイル交換する際は、同時にオイルフィルタの交換も実施ください。

詳しくは、車載の「取扱説明書」を参照願います。